

大学英語科目におけるTOEIC授業の可能性 － 自律学習者を育てる授業実践報告

関戸 冬彦、柳瀬 真紀

The Possibility of TOEIC Classes in English Curriculum for University － A Practical Report for Nurturing Autonomous Learners

SEKIDO Fuyuhiko, YANANOSE Maki

The main purpose of this paper is to introduce English lessons called “TOEIC English,” which was conducted at Kochi University in 2016. In this paper, practical activities in lessons done by the lecturer, Maki Yananose, are mainly reported and Sekido analyzes them objectively as a report. This paper consists of three parts, “the aim of the lessons and overview,” “unique activities and learners’ responses” and “reviews and possibilities” with an appendix.

はじめに

本報告は2016年度に開講された高知大学共通教育における英語科目「TOEIC 英語」（第二学期、10月1日から1月30日まで週2コマ全30回開講）を担当した柳瀬真紀が記した授業記録（Appendix 1）を基に、関戸冬彦がそのねらいや達成度などを客観的に分析しつつ、また必要に応じて柳瀬に質問をして授業運営や学生の反応に関する疑問点を明らかにしながら、まとめた授業実践報告である。まず、「授業のねらいと概要および運営について」ではこの授業の概略をまとめる。つぎに、「特徴的活動と受講者の反応」では本授業内に行われたいくつかの活動や特筆すべき点を取りあげてみたい。そして最後に「考察と今後の可能性」では最終授業の際に行った授業アンケートを基に授業の改善すべき点、将来的な可能性についても言及する。

1 授業のねらいと概要および運営について

「TOEIC英語」という授業は高知大学において共通教育という枠組みの中に置かれた、選択言語科目である。履修対象者は全学部の学生で、意志さえあれば学部、学年を問わずに誰でも履修できる。また、同じ科目名において複数の教員が開講、担当しているため、受講者は曜日時限、担当教員などを考えた上で自由に、自主的に選択することが出来る。柳瀬の場合は月曜2限、木曜1限の週2コマで担当した。なお、柳瀬は当該科目担当非常勤教員であると同時に高知大学自律学習支援センターの学習アドバイザーでもある。自律学習支援センターの役割については後述する。

高知大学のウェブシラバスによると、「TOEIC英語」という科目は2008年から開講されており、年によって開講数が若干変動してきたものの、第一学期、第二学期どちらにおいても開講され、2016年度の場合はそれぞれ2コマ、3コマという開講数であった。内容や教科書は担当教員の裁量に任されており、柳瀬の場合はTOEIC、ならびにその対策をより効果的にするために教材のAuthenticityを重視し、使用教材にはTOEIC対策にとって極めて信頼のおける教材、また2016年5月から実施されている新形式にも対応している、『TOEIC テスト 非公式問題集 至高の400問』を選んだ。なぜこれがほかのものとは比べてAuthenticと呼べるかについても後述する。

科目名に「TOEIC英語」と謳っていることに偽りなく、柳瀬の授業はTOEICのスコアアップを主眼とし、それに必要な対策、知識、そしてその礎となる英語力向上をはかるところにそのねらいがある。授業では指定教材を受講者が購入し使用、必要な学習事項は柳瀬がパワーポイントなどを用いて説明、そして教材を用いての実践、あるいは演習という授業スタイルを用いた。

成績評価に関しては、定期試験（中間20%・期末20%）40%、授業内課題2回（グループワーク1回、個人1回）40%、授業参加度10%（積極的発言に加点）、自律学習10%以上の配分により総合的に評価するが、特に課題、予復習、授業への取り組み態度を重視している。また、授業の出席回数が全体の2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失う、としている。なお、ペアワークに関しては、授業内外でのペアワーク1回20点、各ペアの課題を全員に配布し投票、得票数が1番多かったペアには全員に+5点加点する、とした。

受講者数は17名で、毎回全員出席とまではいかないが基本的には出席率が高く、平均して15名はほぼ毎回出席していた。受講者の気質は概ね真面目であり、授業開始前などは特に私語もなく大人しい感じもしたが、ひとたび授業が始まる

と活発に活動が始まる。柳瀬はクラス運営手法のひとつとしてくじによる座席指定を導入している。具体的には、ひとりずつに番号を割り当て、同じ番号の受講者を見つけペアになって座るように指示した。これにより誰が隣になり誰とペアやグループとなるかは毎回異なったので、そうした点も授業内で活動が活性化した一因であったと思われる。なお、受講者の授業開始時における実力やスコアは特段問わなかったが、授業終了時の目標スコアは600点と定めた。

ここで、TOEICにおけるAuthenticityについて少しだけ述べておきたい。TOEIC公開テストではテスト冊子の持ち帰りが禁止なので、テストそのものを分析することは出来ない。また、主催団体である国際ビジネスコミュニケーション協会が出している公式問題集がそれに一番近いように思えるが、やはり公開テストと公式問題集とは必ずしもイコールではない。となると実際の受験経験の豊富さとその分析力が一番高い人の作った問題が実際的に一番本物に近いと言えるだろう。その点、これまで100回以上も受験し、かつ受験者、講師、どちらにもその知識と経験を、セミナーなどを通して伝えているヒロ前田はまさにそうした人物に該当する。柳瀬が今回テキストに指定した『TOEICテスト 非公式問題集 至高の400問』はそのヒロ前田とテッド寺倉、ロス・タロックによって作成されたもので、新形式をいち早く分析したauthenticな問題集である。具体的にどの点がauthenticなのかについては本報告の主旨ではないのでそれに関しては別の機会を持ちたいと思うが、関戸と柳瀬も共にヒロ前田が主催している講師向けTOEICセミナー、TTT (TOEIC Teacher Training) に参加した修了生でもあり、TOEICのAuthenticityに関してはヒロ前田の視点、論点を基準にしている。

2 特徴的活動と受講者の反応

つぎに、本授業の特徴的活動を取り上げてみたい。先に紹介したように、柳瀬は高知大学自律学習支援センターの学習アドバイザーも務めているため、自律学習支援センター (OASIS) の活用を推奨している。自律学習支援センターとは学生が自主的に学んでいくことを支援する機関であり、具体的には関連書籍の貸し出し、自習のためのスペース、あるいは時に学習に関する相談にも応じることのできる場所である。柳瀬を含むスタッフは常時1, 2名駐在しており、学生は開室時間内において自由に利用することができる。

よって、柳瀬は自律学習を促進する活動も授業に積極的に取り入れた。そのひとつが個人による自律学習申告で、受講者には自律学習記録用紙

(Appendix 2) が配布され、自律学習した日の開始時刻と終了時刻を記入し、柳瀬に押印をもらうことになっている。なお、1日につき1時間以上、同じ日に1時間以上自習しても1つの押印、という条件を設定してある。学習内容は受講者個々に任せるが授業名に鑑みTOEIC関連のもののみとし、授業の予習、復習、指定テキストの問題などでもよいし、OASISにあるTOEIC関連書籍を自分で選び、それを自分のペースで学習して報告、などでもよいとした。例えば、ある学生は『改訂版TOEIC TEST文法急所総攻撃』を自主的に借りて学習したという。この活動は授業時間以外における学習習慣を受講者が身につけていく事で自律的学習者になることを促すものである。例として、実際に受講者が記入した記録用紙も掲載しておく (Appendix 3)。なお、受講者の将来的な自律学習を考えたとき、TOEICだけでなく、あらゆる学習内容、項目において授業時間外でも自律的に学習していけることは教育においてとても必要なことであることは論を待たない。TOEICと自律学習についての先行研究としては、例えば山内 (2010) が挙げられ、そこではTOEICを扱う授業の中で Moodle を併用したブレンド型授業の実践が紹介され、自律学習形成の視点も考慮にいれた実践報告となっている。

今度は柳瀬が授業内で行った具体的活動を紹介します。まず、「5秒で解答練習」という活動がある。これは短文の設問で4つの選択肢の問題、つまりパート5、を5秒数える間に柳瀬自家製のABCDの札 (Appendix 4) をあげてもらい解答する、という活動である。これは早く正確にポイントを見極め、答えを選ぶ練習であり、ほぼ毎回、特に学期前半において、実施された。この活動の後、授業内では柳瀬からの解説、重要語句の説明もなされた。また動詞問題・前置詞／接続詞の問題を2択の形式で提示し、各自で正解と思える選択肢を選んだ後にペアにて相談、答えを統一、そして最終的にはABCDの札にて各ペアで答えを示すという活動も行った。活動中は正の字で正答をカウントし、最も多かったペアに加点1とした。つぎに、Part 2 を用いた「パートナー探し」という活動もある。これは質問文と応答文が印刷された紙 (Appendix 5) を受講者全員がそのどちらか1枚ずつを持ち、質問文を持った者はその英文を読んでその質問に対する応答としてふさわしい相手を探す、というものである。もし質問と応答がきちんとあえばそれで終了、ペアで座ることができる。逆にうまく噛み合わなかった場合は、応答側は質問に対する自分なりの答えを英語で告げた後、それぞれまた違う相手を探しに行く。実際に行ったところ、5分ほどで全員が相手を見つけ着席できたという。質問と応答は前もって学習した

ものを用い、ある意味復習的活動でもあったのでこのくらいの時間でできたのかもしれない。こうした活動はゲーム的要素もあり、受講者も取り組みやすかったのではないだろうか。いわゆる試験対策の授業ではとかく問題を解いて答え合わせ、となりがちだが、柳瀬はこのようなスタイルの活動を行うことで学習事項が自然と身に付くように配慮を施したのだろう。

さらに、文書を読む、文字通りリーディング力が問われるPart 7での活動のひとつとして、Part 7の問題を作るという課題も出された。この課題は問題を作り、かつそれを授業内でプレゼンテーションするところまでも含む。作成、および作成後のプレゼンテーションについては受講者に手引が事前に配布されており、それと同じものを資料として記載しておく（Appendix 6）。これによると、受講者はPart 7に出題されそうな文書を自分でウェブなどを通じて探し、かつ設問も考えるという「問題を解く」受け身的な姿勢から「問題を作る」クリエイティブな能力と作業が求められていることがわかる。柳瀬は、この課題を出した意図は3点あるとし、「まずはTOEIC的文書を探すためにいろいろな英文を読む、次にどういう問題が作られているかをテキストで確認、つまり問題の性質、特徴をより能動的に見るようになる、最後に設問の選択肢の作り方や単語の選び方、英文のどの部分を問題にするのか、また答えになるのかを見極められるようになる」と述べ、また「最終的にはPart 7的な英文をたくさん読んでほしかった」と語った。

加えて、設問文に対する適切な応答文を答える形式のリスニング問題Part 2と、文法、語彙の知識が問われるPart 5の問題を作成する課題も出された。実施にあたってはPart 7の課題の時と同様、手引き（Appendix 7）を事前に配布し、概要を説明した。この課題においても受講者たちは課題を作るだけでなく、それを授業内で発表するというプレゼンテーションの時間も設けられた。今回はペアによる作成であったが、提出されたもの全てに対して柳瀬はワードファイルに赤入れ、コメントを添えて返却している。

さて、実際に課題をやった受講者はどのように感じていたのだろうか。この点を調査するべく、課題実施後にアンケート（Appendix 8）を行い、この課題に対する評価、コメントを募った（回答数16）。それによると概ね、問題作成を通じて英語力がやや上がり、テストへの関心が高まったと答え、問題を作成することは良いという肯定的な意見が多かった。課題そのものに対しては、やや難しいという反応であったが、それがゆえに学びになったと感じた受講生が多かったのではないかと推察される。特に、「問題作成を通じて英語力が

上がったと感じるか？」に対するひとつの記述回答の例として、「自分自身で問題を考えることで、作成者の意図を理解することができたから。さらに、単語とかも自分で調べたりすることで自ら英語に触れることもできた。」というコメントが寄せられた。これは、「いわゆる対策ではなく、自分でテスト問題を作成してみることをどう思うか？」への回答ともつながっていると考えられる。例えば、「自分でテスト問題を作るためには、テストを解く受け身ではなく、自分から問題になりそうな部分を探す能動的姿勢で向き合うので、私のように英語に対する苦手意識改善に少しでも役に立つと思う。」、「テスト問題を解くだけでなく、問題の本質に触れられるから。」、「自分で問題を作ることで、テスト作成者の意図がちょっと分かった気がします。」、「受動的な勉強が今まで多かったので、自分でテストを作成することによって良い刺激を受けたと考えている。」などの声があり、これらを鑑みるに問題作成をする過程において行った学習、準備などがひいては英語力があがったと自分で意識できるきっかけになったとも言えるだろう。具体的能力としては、テスト問題を作ることでReading力やWriting力が上がった、やや上がったと感じた受講生が多く、解くことに関してはReading力とListening力が上がったと感じた回答が多く見られた。受講者のこうした意見と柳瀬の意図とを統合して考えると、柳瀬が狙った3つの意図、「いろいろな英文を読む、問題の性質や特徴を能動的に見る、最後に設問の選択肢の作り方や単語の選び方、英文のどの部分を問題にするのか、また答えになるのかを見極められるようになる」は達成されたと言ってよいだろう。なお、参考までに最優秀作品とそれに対する柳瀬のフィードバックも合わせて掲載しておく（Appendix 9）。

最終テストは全30回の授業が終わった後の定期試験期間内に実施された。テストの内容はテキストからの問題などをリスニング、リーディングを実際の公開テストを同じバランスで配分し、ただし問題数は半分、というハーフ模試のような形式で行われた。結果は、2名を除き全員が70点を超え、平均点は85点、100点も4名いたとのことで、得点率から換算すると、柳瀬が授業開始時に目標とした600点はクリアできるレベルに達した、と言えるだろう。

3 考察と今後の可能性

最後に、本授業に関する考察と今後の可能性を記しておきたい。最終授業の際に授業に関するアンケート（Appendix 10）が実施されたのでまずはその結果を概観する（回答数16）。それによると、授業が有意義であったかどうかにか

については全員が「非常に有意義」、「有意義」と答え、また自身の英語力の向上につながったかどうかに関しては9名が「とても上がった」、5名が「上がった」と答えた。同じように評価が高かったのは提出物のフィードバックは学習に有益かに関してで、全員が「とても有益」、「やや有益」としている。加えて、評価が明確かについても一名のみ「どちらとも言えない」との回答だったが残り15名は「とても明確」、「やや明確」としている。若干意見が分かれたのは授業の改善点の有無についてで、2名が「ややある」とした。具体的には「黒板の字が少しうすい」「単語を覚える作業は授業中にしなくていいと思った」であった。しかし半数の8名は「あまりない」を選び、「すごい楽しい授業でした」「毎回ペアやグループでのアクティビティを考えてきてくれたので楽しく学習できました」といったコメントを残している。この結果から察するにはほとんどの受講者たちは柳瀬の授業を選択したことを肯定的に捉え、また授業内で行ったアクティビティやそれに関するフィードバックを通して学習出来たことに喜びを感じたと言えるだろう。また、柳瀬自身も自律学習記録用紙のコメントにあった「英語学習はこれからも習慣にしていきたい」を見て、「こういう風になってほしかった」と語っており、教員、受講者共に達成感を得られた授業であったと思われる。

なお、新形式についてはどうだったのだろうか。世間では2016年5月から新形式が導入されることでいろいろと話題になり、新しい問題集なども発売されたが、柳瀬の授業における受講者たちのほとんどはTOEIC受験経験が浅く、どこがどう変わったというよりも、TOEICはこういうものなんだという認識だったようで、それほど形式的なことへの反応はなかったという。これまでに何度も受験をして従来の形式になれた者にとっては形式の変更は影響したかもしれないが、従来を知らないものにとってはさほど影響、関心はなく、また新たに加わった部分が特に難しいといったような先入観もなかったということだろう。

さらに、今後の可能性についてであるが、現在TOEICはListening & ReadingとSpeaking & Writingを別個に実施している。本授業ではListening & Readingのみを学習対象としたが、将来的にはSpeaking & Writingも視野に入れてみたいと柳瀬は言う。その先例として、たとえば横川（2016）が行ったような4技能統合型スピーキング活動、Extensive Listening Shareなどのようなものをあげながら、高知大学の学生の特性をよく考慮に入れた上で導入を検討してみる必要がある、とのことである。

おわりに

本報告は上記のような3つの点から「TOEIC英語」という授業のまとめを行った。まず「授業のねらいと概要および運営について」では「TOEIC英語」という科目の概要を述べ、評価の仕方、またTOEICにおけるAuthenticityについても触れた。次に、「特徴的活動と受講者の反応」では柳瀬が務める自律学習支援センターを生かした自律学習促進のための活動や、本授業における特徴的な活動、たとえばゲーム的要素を取り入れたPart 5（文法、語彙）対策や、文書読解問題であるPart 7の問題を作ってみるというクリエイティブな課題などを紹介した。特に問題を作る活動については受講者にアンケートを取ることでその活動のねらいや達成度が明らかになった。最後に、「考察と今後の可能性」においては授業全体に関するアンケート結果からわかった受講者の反応をまとめ、また将来的な授業のさらなる可能性についても言及した。このように、柳瀬はTOEICの授業と言っても問題集を開けて答え合わせをするといった一斉授業、受動的な態度、からなるべく脱却し、受講者が自律的な学習者になれるよう授業全体を立案、フォローをした。こうした点はユニークであり、それでいて学習の真髄を突いた、オリジナルな「TOEIC英語」であったと言える。

参考文献

- 山内真理. 2010. 「自律学習促進を目指す授業設計：TOEIC対策科目におけるMoodle活用実践報告」『神戸海星女子学院大学研究紀要』第48号, 107-123.
- 横川綾子. 2016. 「TOEIC Speakingのタスクを活用した4技能統合型スピーキング活動」『グローバル人材育成教育研究』第3巻第1号, 50-57.

Appendix 1 授業記録

TOEIC英語 授業報告

履修者数：17名

第3回	出席者：15名
パート	パート2・パート5
内容	パート2復習・パート5概要／解き方
配布資料	Part 5 スライド印刷・TOEICテストの神様vol.17前置詞 (English Journal 2015年8月号抜粋)・重要語句一覧 (確認用)
その他	ペアワーク用に席替え (毎回くじ引き)・ペアごとに軽く自己紹介 (この間に、準備or資料配布)

授業詳細

前回授業終了後、留学についての質問があったのでIELTSについて説明・対策講座の案内

- ①重要語句一覧 (確認) ペアで交換して採点
- ②Part 2 正答集を使用し、一緒に音読 (発音を確認)
- ③ペアで音読
- ④アクティビティ

質問カード、答えカード (正答集より抜粋) を配布、相方探しをする。質問カード、答えカードともできるだけ見ないで相手に話しかけることを意識してもらう。質問カードを持つ学生は出会う人ごとに質問をし、自分のカードの答えを持つパートナーを探す。答えのカードを持つ学生は質問に対し、何らかの返答をする。(I don't know. I'm not sure.など日本語は禁止) 2回 (全員QとAのカードを使う)

- ⑤Part 5 の解説

スライドに合わせ問題を解いてもらう。この際に札を使用。(ABCDと動詞・副詞・形容詞・名詞の表裏4つの札)

- ⑥スライドで解答した問題をプリントでもう一度学習←ここまでいく予定だったができなかったため、次回にプリントで復習 (次回の方が記憶を思い出しながらできるので学習効果は上がるか?)

宿題 なし

質問 前置詞の学習にて：特定の日にはon (on Sunday morningのように) in the morningは特定の朝とは言えないのか。通常in the morningと言う際は、「朝に」という意味なので、特定の日を指すとは言えないと回答。しかし、もう少しわかりやすく説明できないかとも思ったので、私の宿題とした。

代名詞の問題：答えはits (なぜours、theirsはダメ? 多分ourとtheirと混同か? rapidityの品詞は何か?)

品詞理解は概ねしっかりできている様子。あまり復習はせず、実践的な問題をタイムマネジメントして解答させようと思う。

TOEIC英語 授業報告

履修者数：17名

第4回	出席者：16名
パート	パート5
内容	パート5 復習・実践
配布資料	Part5 復習プリント・5秒で解答練習・動詞の問題
その他	ペアワーク用に席替え（毎回くじ引き）・ペアごとに軽く自己紹介（この間に、準備or資料配布）

授業詳細

就職セミナー、OASIS英会話クラブについての案内

前回の質問についての答え

- ①前回のスライドの復習プリント解答 ポイントを各自整理、答え合わせ
前回欠席者もいたので、ポイントと重要語句を簡単に説明
- ②5秒で解答練習 短文の設問、4つの選択肢の問題を5秒数える間にABCDの札をあげてもらおう（早く正確にポイントを見極め、答えを選ぶ練習。ほぼ毎回実施予定。）
- ③↑解説、重要語句説明
- ④動詞問題・前置詞／接続詞の問題 2択 各自で解答→ペアにて相談（答えを統一）
- ⑤ABCDの札にて各ペア解答（正の字で正答をカウントし、一番多かったペアに加点1）

宿題 なし

質問 manufacturerの単語の説明の中、工場制手工業はmanufactureであっているか？調べて、来週解答することとする。

4回目で大いぶ授業スタイルに慣れてきた模様。ペア学習もしっかり各自がなぜこの答えを選んだのかを説明できていた。間違いの多かった問題を重点的に、来週は今日学んだ語彙のチェックから始めることとする。比較的真面目に取り組む学生が多い、嬉しい。

Appendix 2 自律学習記録用紙

自律学習記録用紙 OASIS

学部： _____ 学籍番号： _____ 氏名： _____

	月日	開始時間	終了時間	使用教材/ページ	内容・感想	押印
例	10月 2日	10時30分	11時30分	究極の模試 P.16～24	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
1	月 日	時 分	時 分			
2	月 日	時 分	時 分			
3	月 日	時 分	時 分			
4	月 日	時 分	時 分			
5	月 日	時 分	時 分			
6	月 日	時 分	時 分			
7	月 日	時 分	時 分			
8	月 日	時 分	時 分			
9	月 日	時 分	時 分			
10	月 日	時 分	時 分			

Appendix 3 自律学習記録用紙 (学生記入済)

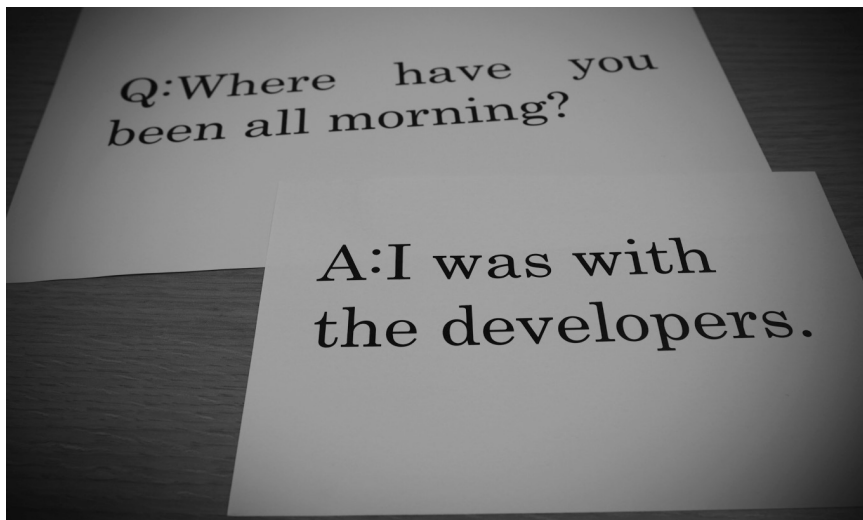
自律学習記録用紙 OASIS

	月日	開始時間	終了時間	使用教材/ページ	内容・感想	押印
例	10月 2日	10時30分	11時30分	究極の模試 P.16～24	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
1	10月 7日	9時25分	10時17分	改訂版TOEIC TEST 233問題の心算 2法集併読解 P11～20	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
2	10月 21日	9時20分	10時2分	改訂版TOEIC TEST 233問題の心算 P21～31	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
3	10月 28日	14時40分	16時20分	改訂版TOEIC TEST 233問題の心算 P32～40	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
4	11月 4日	14時50分	16時3分	改訂版TOEIC TEST 233問題の心算 P14～P21	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
5	11月 11日	9時25分	11時40分	改訂版TOEIC TEST 233問題の心算 P214～P295	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
6	11月 24日	16時0分	17時45分	1/24个问题の復習 単語の～⑩復習	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
7	11月 25日	8時45分	9時45分	改訂版TOEIC TEST 2法集併読解 P280～333	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
8	11月 30日	16時00分	17時00分	TOEIC 233 読解問題 P34～95 (1251)	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
9	12月 9日	9時20分	10時20分	TOEIC 233 読解問題 P96～140	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬
10	12月 13日	16時25分	17時30分	TOEIC 233 読解問題 P141～185	問題を解いて、復習をした。早く正確に解くのは、難しい。 次はもう少し早く解けるように努力する。	柳瀬

Appendix 4



Appendix 5



Appendix 6

課題作成手引 課題

Part7 に出題されるタイプの文書を各自検索し、定番の問題を最低 3 題作成する。(4 題目から加点対象) 提出物 15 点＋発表 5 点＝計 20 点

提出物内訳：

①検索した文書

使用可能文書タイプ

advertisement、Web site、notice、article、instraction、information、schedule、announcemnt

✕使用不可文書タイプ

chat、e-mail、letter、memo

②ワードにてタイプした文書：設問の答えになる箇所に下線＋設問番号を記載

③問題及び解答：3 題それぞれ違う設問を使用。設問は、非公式問題集／公式問題集を参照する。答えは 1 つで可。選択肢を増やし、設問を完成させることができているらば、加点とする。

例) 設問：What is being advertised? 答：A restaurant

✕使用不可設問

In which of the positions marked [1],[2],[3], and [4] does the following sentence best belong?

注意点：設問の解答根拠が同じ箇所にならないようにすること。

締切：12月12日(月) 下記アドレスへ必着

件名：TOEIC 英語課題提出 氏名☞忘れないように！

文書名：TOEIC 英語課題日付氏名 例) TOEIC 英語課題 1212 柳瀬真紀

発表：12月15日(木)

各自課題について発表(3分以内)、投票(得票数が一番多かった学生に5点加点)

提出物評価ポイント

- ①課題の作成手引に準じていること
- ②TOEICの問題として成立していること
- ③問題と解答、下線の整合性

発表評価ポイント

- ①声の大きさ
- ②目線：メモをずっと読んだ場合、評価の対象にはならない。

Appendix 7

TOEIC 英語ペアワーク手引

課題：

1. Part2の問題2題作成。
2. TEST1・2にあるPart5（公式問題集も可）を参考に問題2題作成。

} 全ての解説

採点項目：(1)問題として成立していること (2)TOEICの出題形式に則っていること (3)スペルミスがないこと 10点 (4)解説10点 計20点 ペアは同評価とする。

締切：1月17日（火）までにメールで下記アドレスにデータを送信すること。

アドレス：

件名：TOEIC 英語 PW 課題送付の件 名字2名分

ファイル名：TOEIC 英語 PW 名字2名分 2017.1.〇〇←提出日

問題解答：1月19日（木）

Part2の解答の際は、作成したチームが音読を担当する。

問題解説／投票：1月23日（月）ペアで10分以内

課題＋解説が一番良かったと思うペアに投票。得票数が1番多かったペアに5点加算。

手順

1. どのような問題を作成するか決める。（担当含め）

2. Part2・5作成。

・ Part2

問題タイプは重複しないこと。（例：WH 問題1、Yes/No 1）

各問題必ず1つはキーワード（音が似ている、イメージできる単語）を入れること。

・ Part5

TEST1・2のPart5の原文・問題を参考にする。

品詞問題（名詞・形容詞・副詞）、動詞問題（時制・態・主語の単複）、接続詞／前置詞問題、語彙問題←選択して2問作成する。問題タイプは、重複しないこと。例：品詞問題1・動詞問題1-〇 品詞問題2-×

3. ワードデータ作成。

A4サイズ1枚に収めること。フォント日本語：明朝／英語：Arial 12ポイント

正解には*をつける。PDF化しないこと。

4. 添付して送付。

提出例

TOEIC 英語 PW 課題

作成者：氏名：○○ / ○○

Part2

付加疑問文

1. The sales meeting starts at 10 o'clock, doesn't it?

- (A) I'm meeting him tomorrow.
- (B) Mr. Brown is the sales manager.
- * (C) Yes, Jim told me so.

WH 疑問文

2. Where is the meeting room?

- (A) Nice to meet you.
- (B) On the second floor.
- (C) In the afternoon.

音ワナは必ず1つは入れること！

Part5

品詞問題（副詞）

TEST1-101. Mr. Young ----- erased the important file that had included the sales figures or this quarter.



参考にした問題番号を記載すること！（新形式 vol.1TEST1-101）

- (A) accident
- * (B) accidentally
- (C) accidental
- (D) accidents

動詞問題（時制）

TEST2-102. David Hunt and Eva Stern ----- in touch with each other since they met at the trade show last year.

- (A) kept
- (B) are keeping
- * (C) have been keeping
- (D) keeps

Appendix 8

TOEIC 英語課題アンケート

TOEIC 英語の課題について答えて下さい。授業効果を確認し、今後に活用させるためのアンケートです。個人を特定されない形で集計されます。成績には一切関わりませんので、思った事を自由に記述して下さい。また、この結果は英語教育の論文に掲載される事がありますので、ご了承下さい。

あなたの感想に最も適する答えの番号に○をつけて下さい。四角の枠内には感想や答えの理由をお願いします。

(1) TOEIC の問題作成を通じて英語力が上がったと感じますか。

1 とても上がった 2 やや上がった 3 変わらない 4 やや下がった 5 とても下がった

(2) この課題のレベルはあなたにとって易しかったですか。

1 とても易しい 2 やや易しい 3 ちょうどよい 4 やや難しい 5 とても難しい

(3) この課題は英語テストへの関心を高めるきっかけになりましたか。

1 とてもなった 2 ややなった 3 どちらとも言えない 4 あまりならなかった 5 全くならなかった

(4) いわゆるテスト対策をするのではなく、自分でテスト問題を作成してみることをどう思いますか。

1 とても良い 2 まあまあ良い 3 どちらとも言えない 4 あまり良くない 5 全く良くない

(5) TOEIC は他の英語の試験と比べて取り組みやすいと思いますか。

1 とても取組易い 2 取組易い 3 どちらとも言えない 4 取組にくい 5 とても取組にくい

(取り組み易さ、取り組みにくさの原因があればそれらを具体的に書いてください)

(6) テスト問題を「作る」「出題する」課題について答えて下さい。

Reading 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Writing 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Speaking 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Listening 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

(7) 作った問題を「解く」ことについて答えて下さい。

Reading 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Writing 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Speaking 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

Listening 能力: 1 とてもついた 2 ややついた 3 変化なし 4 やや下がった 5 とても下がった

(8) その他コメントがあれば自由をお願いします(どのテストパートが難しかったか、他にどんな力がついたら、何を学んだか、など)。

Appendix 9

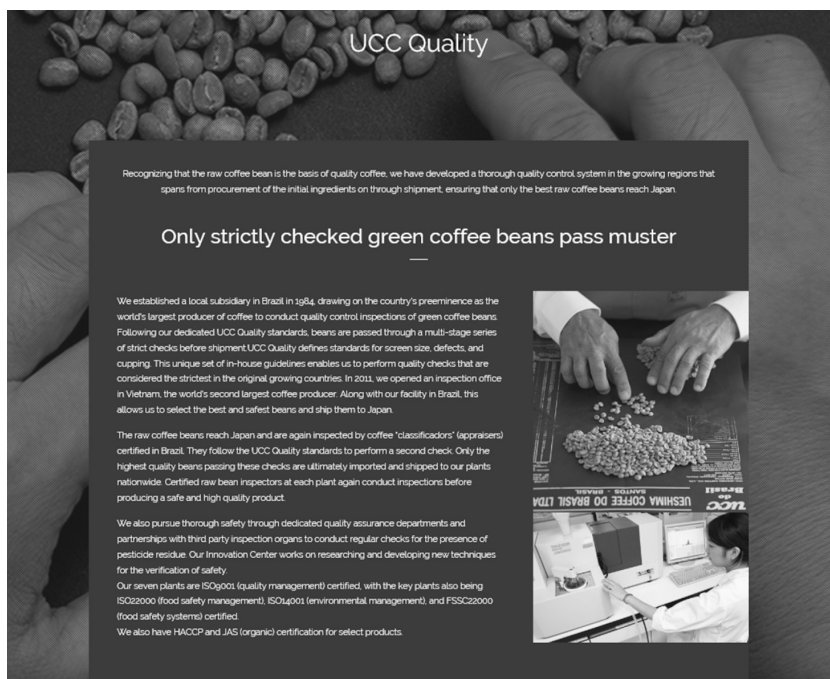
【TOEIC 英語 個人課題】 提出日：2016,12,10

学部： 学籍番号： 氏名：

場所： 兵庫県神戸市、UCC 上島珈琲株式会社

文書の種類：Web site

出典：<http://www.ucc.co.jp/eng/company/about/quality/>



UCC Quality

Recognizing that the raw coffee bean is the best of quality coffee, we have developed a thorough quality control system in the growing regions that spans from procurement of the initial ingredients on through shipment, ensuring that only the best raw coffee beans reach Japan.

Only strictly checked green coffee beans pass muster



We established a local subsidiary in Brazil in 1984, drawing on the country's preeminence as the world's largest producer of coffee to conduct quality control inspections of green coffee beans. Following our dedicated UCC Quality standards, beans are passed through a multi-stage series of strict checks before shipment. UCC Quality defines standards for screen size, defects, and cupping. This unique set of in-house guidelines enables us to perform quality checks that are considered the strictest in the original growing countries. In 2011, we opened an inspection office in Vietnam, the world's second largest coffee producer. Along with our facility in Brazil, this allows us to select the best and safest beans and ship them to Japan.

The raw coffee beans reach Japan and are again inspected by coffee "classificadores" (appraisers) certified in Brazil. They follow the UCC Quality standards to perform a second check. Only the highest quality beans passing these checks are ultimately imported and shipped to our plants nationwide. Certified raw bean inspectors at each plant again conduct inspections before producing a safe and high quality product.

We also pursue thorough safety through dedicated quality assurance departments and partnerships with third party inspection organs to conduct regular checks for the presence of pesticide residue. Our Innovation Center works on researching and developing new techniques for the verification of safety.

Our seven plants are ISO9001 (quality management) certified, with the key plants also being ISO22000 (food safety management), ISO14001 (environmental management), and FSSC22000 (food safety systems) certified.

We also have HACCP and JAS (organic) certification for select products.



UCC Quality

Recognizing that the raw coffee bean is the basis of quality coffee, we have developed a thorough quality control system in the growing regions that spans from procurement of the initial ingredients on through shipment, (1)ensuring that only the best raw coffee beans reach Japan.

Only strictly checked green coffee beans pass muster

(2)We established a local subsidiary in Brazil in 1984, drawing on the country's preeminence as the world's largest producer of coffee to conduct quality control inspections of green coffee beans. Following our dedicated UCC Quality standards, beans are passed through a multi-stage series of strict checks before shipment. UCC Quality defines standards for screen size, defects, and cupping. This unique set of in-house guidelines enables us to perform quality checks that are considered the strictest in the growing countries.

The raw coffee beans are again inspected by coffee "classificadors" (appraisers) certified in Brazil. They follow the UCC Quality standards to perform a second check. Only the highest quality beans passing these checks are ultimately imported and shipped to our plants nationwide. Certified raw bean inspectors at each plant again conduct inspections before producing a safe and high quality product.

We also pursue thorough safety through dedicated partnerships with third party inspection organs (5)to conduct regular monitors for the presence of pesticide residue. Our Innovation Center works on researching and developing new techniques for the verification of safety.

Question

1. According to the Web site, what kind of business is UCC?
 - (A)Harvest
 - (B)Sale
 - (C)distribution*
 - (D)To operate big plantations

2. Where is the biggest country to produce green coffee beans for UCC?
 - (A)Japan
 - (B)Brazil*
 - (C)Guatemala
 - (D)El Salvador

3. How many times does UCC inspect coffee beans?
 - (A)Once
 - (B)Two times
 - (C)Three times*
 - (D)Four times

4. What is NOT mentioned about UCC?
 - (A)It is imported only strictly checked green coffee beans.
 - (B)UCC carry out the strictest quality inspection in the growing countries.
 - (C)UCC works on researching and developing new techniques.
 - (D)UCC is giving assistance to developing countries.*

5. Why does UCC work together with third party inspection organs?
 - (A)To protect from agrochemicals*
 - (B)To check roasting condition
 - (C)To sell coffee beans efficiently
 - (D)To protect coffee beans from theft

【TOEIC 英語 個人課題】 提出日：2016,12,10

学部： 学籍番号：

氏名：

Question

6. According to the Web site, what kind of business is UCC?
 - (A)Harvest
 - (B)Sale
 - (C) **D**istribution*
 - (D)~~To~~Operate big plantations
7. Where is the biggest country to produce green coffee beans for UCC?
 - (A)Japan
 - (B)Brazil*
 - (C)Guatemala
 - (D)El Salvador
8. How many times does UCC inspect coffee beans?
 - (A)Once
 - (B)**Two times Twice**
 - (C)Three times*
 - (D)Four times
9. What is NOT mentioned about UCC?
 - (A)It is imported only strictly checked green coffee beans.
 - (B)**UCC It carries** out the strictest quality inspection in the growing countries.
 - (C)**UCC It** works on researching and developing new techniques.
 - (D)**UCC It gives is giving** assistance to developing countries.*
10. Why does UCC work together with third party inspection organs?
 - (A)To protect from agrochemicals*
 - (B)To check roasting condition
 - (C)To sell coffee beans efficiently
 - (D)To protect coffee beans from thefts

5題作成、また全て選択肢まで取り組んでおり、素晴らしいです。内容、また設問の選択肢も工夫が見えました。問題追加2問(2点)、全ての選択肢5問(5点)の計7点の加点ですが、赤字の部分各0.5点の減点とし、合計5点分の加点となります。(加点上限が5点なので、ちょうど良いと思います)総合的にとても良い課題作成でした。次も頑張ってください。

基準点	加点	発表	合計
15	5		

Appendix 10

【TOEIC 英語授業 アンケート】

授業内容向上のため、アンケートにご協力をお願いします。当てはまるものに○をつけてください。枠内には答えの理由をお願いします。

1) 授業は有意義なものでしたか。

1 非常に有意義 2 有意義 3 どちらとも言えない 4 あまり有意義ではなかった 5 有意義ではない

2) 自身の英語力の向上につながりましたか？

1 とても上がった 2 やや上がった 3 変わらない 4 やや下がった 5 とても下がった

3) 授業の内容（評価）で改善すべき点はありますか？

1 全くない 2 あまりない 3 どちらとも言えない 4 ややある 5 ある

4) 評価は明確だと感じましたか？

1 とても明確 2 やや明確 3 どちらとも言えない 4 あまり明確でない 5 明確でない

5) 提出物のフィードバックは学習に有益だと思いますか？（コメント、添削）

1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない

6) 教員の小話（働きかけ、書籍紹介、思い出話）は、何かを考えるきっかけとなりましたか。

1 とてもなった 2 ややなった 3 変わらない 4 ならない 5 やめてほしかった

7) その他、コメントがあれば自由をお願いします。

ご協力ありがとうございました。